

第 2 編 CMMI-DEV の書式

一般大目標と一般プラクティス (Generic goals and Generic practices) P.77-

概要：

この章では、プロセスの制度化を直接指向したモデルコンポーネントである、CMMI の一般大目標と一般プラクティスの全てについて詳細に説明する。個々のプロセス領域について知りたければ、全ての一般プラクティスの詳細について書かれているこの章を参照すればよい。

一般プラクティスの後に出てくる一般プラクティス詳細説明は、一般プラクティスをプロセス領域にどのように適用できるかについてのガイダンスを提供している。

プロセスの制度化 (Process Institutionalization)

制度化はプロセス改善において重要なコンセプトである。一般大目標と一般プラクティスの記述に言及する場合、制度化とは、プロセスが作業のやり方に馴染み、そしてプロセスを実行する為に委託と一貫性が存在している、ということの意味している。

制度化されたプロセスは、非常時 (times of stress) での耐性も期待できる。しかし、プロセスの要求と目的とが変更される場合には、プロセスの効果を保つようにプロセスの実装 (implementation) もまた変更する必要がある。一般プラクティスは、制度化のこうした側面についての活動を記述している。

制度化の度合いは一般大目標の中で具体化されており、表 6.1 で示している各目標に関係するプロセスの名前によって表現されている。

表 6.1 一般大目標とプロセス名

一般大目標	プロセスの進捗度
GG1	実行されているプロセス (performed process)
GG2	マネージメント下にあるプロセス (managed process)
GG3	定義されたプロセス (defined process)

プロセスの制度化の進捗状況は、以下の通りである。

実行されているプロセス (Performed Process)

「実行されている」プロセスとは、あるプロセス領域の特定大目標を満たすために必要な作業を完了したプロセスのことである。

マネージメント下にあるプロセス (Managed Process)

「マネージメント下にあるプロセス」は、実行されているプロセスの内、以下の条件を満たすものである：

- ・ポリシーの下で計画・実行されている
- ・制御（control）された出力物を生産する為に十分な資源を持つ技能者を雇用している
- ・利害関係者が参加している
- ・監視と制御と批評が行われている
- ・プロセス記述に忠実であるかどうか評価している

プロセスは、プロジェクトやグループ、もしくは組織の機能によって生成（*instantiate*）される。プロセスのマネージメントは、コストやスケジュール、品質といった、プロセスの為に設定された他の特定大目標の達成と制度化に関係している。マネージメント下にあるプロセスによってもたらされる制御は、設立（*establish*）されたプロセスが非常時に耐性を持っていることの保証を手助けしてくれる。

プロセスの要求と目標とは、組織によって設定される。作業成果物とサービスの状態は、定義点（例えば、大きな節点（*milestone*）、大きな任務終了時など）でマネージメントを行う為に、可視化される。作業の実行者と利害関係者との間で委任が設定され、必要に応じて改定される。作業成果物は利害関係者によって批評され、また制御される。作業成果物とサービスとは、プロセスの具体的要求を満たしている。

実行されているプロセスとマネージメント下にあるプロセスとの大きな違いは、プロセスのマネージメントの程度である。マネージメント下にあるプロセスは計画され（この計画は、より大きな計画の一部である可能性もある）、そしてこの計画に沿ってプロセスが実行されるのである。実際の結果と実行とが計画から著しく外れてしまった時には、修正行動が採られる。マネージメント下にあるプロセスは、計画された目的を達成し、一貫した実行の為に制度化されているのである。

定義されたプロセス（Defined Process）

「定義されたプロセス」とは、マネージメント下のプロセスの内、以下の条件を備えたマネージメントプロセスである：

- ・組織のカスタマイズ（**tailoring**）ガイドラインに従って、組織の標準プロセスセットからカスタマイズされている
- ・プロセス記述が維持されている
- ・経験に関連するプロセスが、組織化されたプロセス資産に貢献している（**contribute**）

組織化されたプロセス資産は、プロセスの記述と実装、改善に関係した人工物（**artifact**）である。こうした人工物は資産であるといえる。なぜなら、組織のビジネス目標に合致するように開発もしくは習得され、現在と未来のビジネス価値を提供するものと期待された、組織による投資物を意味しているからである。

定義されたプロセスの基礎となる、組織の標準プロセスのセットは、常に設立と改善がなされている。標準プロセスは、定義されたプロセス内で期待される、基礎的なプロセス要素を記述したものである。標準プロセスはまた、こうしたプロセス要素間の関係（命令や、インターフェース等）も記述している。組織の標準プロセスのセットの現在と将来の使用を支援する組織レベルの基盤（**infrastructure**）は、常に設定と改善とが行われ続ける。（用語集の「標準プロセス」の定義を参照）

プロジェクトの定義されたプロセスは、プロジェクトの任務と行動を計画・実行・改善する為の基礎となる。プロジェクトは少なくとも 2 つ以上の定義プロセスを持つ（例えば、一つが製品開発、もう一つが製品のテスト）

定義プロセスは、以下のものが明確に示されている：

- ・目的（**Purpose**）
- ・入力物（**Inputs**）
- ・開始基準（**Entry criteria**）
- ・行動（**Activities**）
- ・役割（**Roles**）
- ・測量（**Measures**）
- ・検証ステップ（**Verification step**）
- ・出力物（**Outputs**）
- ・終了基準（**Exit criteria**）

マネージメント下のプロセスと定義されたプロセスの大きな違いは、プロセス記述・標準・手続きの適用の対象範囲（scope）である。マネージメントプロセスにとってプロセス記述・標準・手続きは、ある 1 つの明確なプロジェクトやグループ、組織的機能に対して適用可能である。その為、1 つの組織の 2 つのプロジェクト内のマネージメント下のプロセスは、異なったものになる可能性がある。

もう一つの大きな違いは、定義されたプロセスの方がマネージメント下のプロセスと比べて、より詳細に記述され、またより厳格に実行されることである。この差違は、つまり改善された情報の方が、理解や分析、使用が容易であるという事を示している。そして最後に、定義されたプロセスのマネージメントは、プロセス活動の相互関係と、プロセスとプロセスの作業成果物・サービスの詳細な尺度（measures）とを理解することによってもたらされる追加の洞察を基にしている。

プロセス間の関係性（Relationships among Process）：

一般大目標は進化すると、それ自身が次の目標の基礎となる。その為、次のような結論を導き出すことができる。

- ・ マネージメント下にあるプロセスは、実行されているプロセスである
- ・ 定義されたプロセスは、マネージメント下にあるプロセスである

こうして、連続に順番に適用される事で、一般大目標は、実行されているプロセスから定義されたプロセスへと次第に制度化されて行くプロセスを、記述するのである。

あるプロセス領域に対する GG1（Generic Goals 1：一般大目標 1）を達成するという事は、そのプロセス領域の特定大目標を達成する事であるということに等しい。

また、あるプロセス領域に対する GG2（一般大目標 2）を達成するという事は、プロセス領域に関係したプロセスの実行をマネージメントできていると言うのに等しい。例えば、プロセスを実行するに当たってのポリシーが存在している、プロセスを実行する為の計画が存在している、リソースが提供されている、責任所掌が決まっている、どのように実行するかについての訓練が行われている、プロセスの実行で生成される選択された作業成果物が管理下にある、等といったことが行われているということである。言い換えるならば、

プロジェクトや支援行動のように、プロセスが計画され、監視されているということである。

あるプロセス領域に対する GG3（一般大目標 3）を達成するという事は、組織化された標準プロセスが存在しているということである。この組織化された標準プロセスをカスタマイズすることでプロセスとして使用することが可能になる。この「カスタマイズする」という事は、結果として標準プロセス本体には何ら手を付けないということである。言い換えるならば、使用されるプロセスと標準プロセスとは同一であるということである。標準プロセスを「そのまま」使用することであっても、何の変更も要求されないという選択がなされているということにより、カスタマイズされているということになるのである。

各プロセス領域は複数の活動について記述し、その内の幾つかの活動は繰り返し実行される。新しい実行可能性や環境に対応する為に、こうした活動の一つが実行されてやり方をカスタマイズする必要性が出てくることもある。例えば、Web ベースの訓練を考慮していない組織訓練の開発や獲得の為に標準を持っていたとする。Web ベースの訓練コースの開発もしくは獲得の準備をする際には、Web ベース訓練特有の問題点と利益に対応させる為に、この標準プロセスをカスタマイズしてゆく必要が出てくるだろう。

一般大目標と一般プラクティス（Generic Goals and Generic Practices）：

この章では、全ての一般大目標と一般プラクティスと共に、それに関連するサブプラクティス（subpractice）や記述（note）、例、そして参照について説明して行く。一般大目標は、番号順に GG1 から GG3 の並びで構成されている。そして一般プラクティス（Generic Practice：GP）もまた、それぞれの一般大目標の下で番号順に並んでいる。

GG1 特定大目標の達成（Achieve Specific Goals）：

プロセス領域の特定大目標は、識別可能な入力作業成果物を、識別可能な出力作業成果物へと変換するプロセスによって、支援されている。

GP 1.1 特定プラクティスの実行（Perform Specific Practices）：

プロセス領域の特定大目標を達成に必要な、作業成果物の開発とサービスの提供を行う為に、プロセス領域の特定プラクティスを実行している。

この一般プラクティスの目的は、作業成果物を作成し、そしてプロセスを実行する事によって期待されるサービスを配布することである。こうしたプラクティスは、ドキュメント化されたプロセス記述やプロセス計画に沿わない非公式な形であっても実行されることがある。こうしたプラクティスが実行される際の厳密さは、作業の管理者（manager）や実行者の資質に依存しており、変化の度合いが大きい。

GG2 運用管理プロセスの制度化 (Institutionalize a Managed Process) :

プロセスは、運用管理下にあるプロセスとして制度化されている。

GP 2.1 組織的ポリシーの設立 (establish) :

プロセスの計画と実行の為の、組織的ポリシーの設立と維持管理 (maintain)。

この一般プラクティスの目的は、プロセスに対する組織的な期待を定義し、そして影響を受ける組織のメンバーに対して、定義した期待を可視化することである。組織に対するガイド原則や方向性、組織の期待の設立と伝達を行う責任は、一般的に上級管理者にある。

上級管理者からの指示の全てが「ポリシー」となるわけではない。それが何と呼ばれていようとも、それがどのように伝えられていたとしても、適正な組織的指示の存在が、この一般プラクティスの期待となる。

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決) 詳細説明

このポリシーは、選択された出力物の原因分析を識別し、システム的に取り扱う為の組織的期待を設立する。

CM (Configuration Management、概形マネージメント) 詳細説明

このポリシーは、ベースラインの設立と維持管理、(概形マネージメント下での) 作業成果物の変更点の追跡と管理、そしてベースラインの整合性の確立と維持管理に対する、組織的期待の設立を行う。

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決) 詳細説明

このポリシーは、設立された基準に対する識別された選択肢を評価する、公式の評価プロセスを使用することで、実行可能な決定を選択的に分析する為の、組織的期待を設立する。このポリシーはまた、決定に際して公式な評価プロセスが必要となる場合に従うガイドダンスも提供すべきである。

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント) 詳細説明

このポリシーは、以下の事を行う為の、組織的期待の設立を行う：

- ・プロジェクトのスタート時からプロジェクトの生涯を通じて、プロジェクトの定義されたプロセスの設立と維持管理
- ・プロジェクトの運営管理での、プロジェクトの定義されたプロセスの使用
- ・利害関係者との協調や共同作業

MA (Measurement and Analysis、計測と分析) 詳細説明

このポリシーは：

- ・測定目標と測定活動を、認識された情報需要と、プロジェクト目標や組織的目標、もしくはビジネス目標に揃える為の、組織的期待を設立する。
- ・計測結果を提供する為の、組織的期待を設立する。

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義) 詳細説明

このポリシーは、以下の目的のための組織的期待を設立する：

- ・組織によって使用される標準プロセスセットの設立と維持管理
- ・組織で利用可能な組織的プロセス資産の作成
- ・チームの為のルールとガイドラインの設立

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点) 詳細説明

このポリシーは、以下の目的の為の組織的期待を設立する：

- ・使用中のプロセスのプロセス改善機会の決定
- ・組織内でプロセス改善の計画、適用、展開

OPM (Organizational Performance Management、組織の実績マネージメント) 詳細説明

このポリシーは、以下の目的の為の組織的期待を設立する：

- ・実績不足を決定する統計もしくは他の定量化技術を使用することで、組織の営業実績 (business performance は営業成績) を分析
- ・質的目標とプロセス実績目標の達成に寄与するプロセス改善と技術改善の、識別と展開

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績) 詳細説明

このポリシーは、組織の標準プロセスセット向けの、プロセス実績のベースラインと、プロセス実績モデルの、設立と維持管理の為の、組織的期待を設立する。

OT (Organizational Training、組織的訓練) 詳細説明

このポリシーは、組織の戦略的訓練需要の識別と、識別された訓練の提供の為の、組織的期待を設立する。

PI (Product Integration、製品統合) 詳細説明

このポリシーは以下の目的のための組織的期待を設立する：

- ・製品統合の戦略や手法、環境の開発
- ・製品コンポーネント間のインターフェースの互換性の保証
- ・製品コンポーネントの組立
- ・製品と製品コンポーネントの引渡

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理) 詳細説明

このポリシーは、プロジェクト計画に対するプロジェクトの進捗並びに実績を監視し、そして実績や結果が計画から著しく離脱した場合には修正行動を運営管理する為の、組織的期待を設立する。

PP (Project Planning、プロジェクト計画) 詳細説明

このポリシーは以下の目的の為の、組織的期待の設立を行う：

- ・計画パラメータの類推
- ・内外部の同意（委任）の形成
- ・プロジェクトの運営管理の為の計画の作成

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証) 詳細説明

このポリシーは、プロセスとそれに関係する製品とが、適用可能なプロセス記述や標準、手続きと密接に結びついているかどうかを客観的に評価し、そして品質の不履行（noncompliance）への対処を保証する為の、組織的期待を設立する。

またこのポリシーは、全てのプロジェクトにおけるプロセスと製品の品質保証の為の組織的期待を設立する。プロセスと製品の品質保証は、不履行事項の識別と報告を客観的に行うために、プロジェクトマネジメントから十分な独立性を確保しなければならない。

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント) 詳細説明

このポリシーは、以下のような場合に、統計等の定量化技術と履歴データを用いて組織的期待の設立を行う：

- ・品質目標とプロセス実績目標の設立
- ・プロジェクトの定義されたプロセスの構成
- ・プロセス実績の理解の為に重要となるサブプロセス属性の選択
- ・サブプロセスとプロジェクト実績の監視
- ・プロセス実績が不足した場合での根本原因分析（root cause analysis）の実行

特にこのポリシーでは、プロセス実績の測定やベースライン、モデルを使用する為の組織的期待の設立を行っている。

RD (Requirements Development、要求開発) 詳細説明

このポリシーは利害関係者の需要を収集し、製品と製品コンポーネントの要求をまとめ、そしてこれらの要求物を分析、確認（validate）する為の、組織的期待を設立する。

REQM (Requirements Management、要求マネージメント) 詳細説明

このポリシーは、要求をマネージメントし、そして要求とプロジェクト計画、作業成果物との間の不一致を識別する為の組織的期待を設立する。

RSKM (Risk Management、リスクマネージメント) 詳細説明

このポリシーは、リスクマネージメント戦略を立て、そしてリスクの識別と分析、低減を行う為の組織的期待を設立する。

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネージメント) 詳細説明

このポリシーは、供給者同意の設立と維持管理、そして供給者満足度の維持を行う為の、組織的期待を設立する。

TS (Technical Solution、技術的解決) 詳細説明

このポリシーは、製品や製品コンポーネントの解決対象の選択、デザイン、デザインの適用という、繰り返しサイクルを取り扱う為の組織的期待を設立する。

VAL (Validation、批准、確認) 詳細説明

このポリシーは、製品や製品コンポーネントがエンドユーザーの意図した運用環境下で要求を満足することを保証するように、確認を行う製品や製品コンポーネントの選択、確認手法の選択、そして確認手続きや確認基準、確認環境の設立・維持管理の為の、組織的期待を設立する。

VER (Verification、証明、相互検証) 詳細説明

このポリシーは、対等な批評を実行し、選択された作業成果物を検証する為だけでなく、検証手法や検証手段、検証基準、検証環境の設立・維持管理の為の、組織的期待を設立する。

GP 2.2 プロセスの計画 (Plan the Process)

プロセスを実行する為の計画を立案し、維持管理する。

この一般プラクティスの目的は、プロセスの実行や設立した目標の達成、プロセスの実行計画の準備、プロセス記述の準備、そして利害関係者からの計画に対する同意の取得の、それぞれに対して何が必要なのかを決定する事である。

プラクティスの実際の適用のやり方は、プロセス領域によって変化する。

例えば、「プロジェクト監視と管理 (PMC)」プロセス領域に適用される、この一般プラクティス (GP2.2) によって記述された計画は、「プロジェクト計画 (PP)」プロセス領域と関係するプロセスのみで実行する事が可能である。しかし「プロジェクト計画 (PP)」プロセス領域に適用される場合には、この一般プラクティスは、プロジェクト計画プロセスそれ自身が計画されているという所期 (expectation) を設定するのである。

そのため、この一般プラクティスは CMMI のどこか他の場所にある所期 (expectation) のセットを補強するか、もしくは言及すべき新しい期待を設定することが可能である。

(「プロジェクト計画 (PP)」プロセス領域の項目を参照する事で、プロジェクト活動を定義する計画を設立し維持管理する事についてのより多くの情報を得る事が出来る)

計画の設立には、計画のドキュメント化とプロセス記述とが含まれる。また計画の維持管理には、要求や目標における変更や修正活動を反映して計画を最新に保つ作業も含まれている。

プロセスを実行する計画には、一般的に以下に挙げる項目が含まれる：

- ・プロセス記述
- ・プロセスの作業成果物とサービスに関する標準と要求
- ・プロセスの実行とその結果に関する具体的な目標
(例：品質、期間、繰返時間、リソースの使用)
- ・プロセスの活動や作業成果物、サービスの間にある依存関係
- ・プロセスの実行に必要なリソース（例：資金、人、道具）
- ・責任と権限の割り当て（assignment of responsibility and authority）
- ・プロセスの実行と支援に必要な訓練
- ・管理すべき作業成果物と、それに対して適用される管理レベル
- ・プロセスの実行や、それによる作業成果物やサービスに対する洞察を提供する、計測要求値（measurement requirement）
- ・利害関係者の巻き込み
- ・プロセスの監視・管理行動
- ・プロセスの客観的評価行動
- ・プロセスと作業成果物に対するマネジメント批評活動

サブプラクティス（Subpractice）

1. プロセスの実行計画を定義し、ドキュメントとしてまとめる

この計画のドキュメントは、1つの独立したドキュメントとしてまとめる以外にも、より包括的なドキュメント内に埋め込む形や、複数のドキュメントに跨る分割記載としてもかまわない。複数のドキュメントに跨って分割記載する場合には、誰が何をやるのかという一貫性のある全体像が保たれるようにしなければならない。ドキュメントの形態は紙書類（hardcopy）でも電子ファイル（softcopy）でも良い。

2. プロセス記述を定義し、ドキュメントとしてまとめる

関連した標準と手続きも含めたプロセス記述は、プロセスの実行計画の一部に含めても良いし、実行計画内で参照しても良い。

3. 利害関係者と計画を批評し、彼らの同意を取る

利害関係者にとって、ポリシー、計画、要求、標準が適用可能なものであるかどうかについて、この実行計画の批評を行う。

4. 必要に応じて計画を更新する

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析と解決) 詳細説明

原因分析と解決 (CAR) プロセスの実行計画は、プロジェクト計画 (PP) プロセス領域に記述されているプロジェクト計画に含める (もしくはそこから参照する) ことが可能である。

この原因分析と解決 (CAR) プロセスの実行計画は、CAR プロセス領域の幾つかの特定プラクティスで記述されている行動提案と関連活動計画 (action proposals and associated action plans) とは異なったものである。

この一般プラクティス (プロセスの計画 GP2.2) で呼び出されている計画は、プロジェクト全体での原因分析と解決プロセスについて取り扱ったものである (恐らくは、組織によって維持管理されている標準プロセスをカスタマイズしたものである)。

それとは対照的に、プロセス行動提案と関連行動アイテム (process action proposal and associated action items) は、調査中の具体的な根本原因について取り扱う必要がある活動を、取り扱ったものである。

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

概形マネージメントプロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画 (PP) プロセス領域内で記述されているプロジェクト計画に含めるか、プロジェクト計画から参照することができる。

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

決定分析と解決プロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画 (PP) プロセス領域に記述されているプロジェクト計画に含めるか、もしくはプロジェクト計画から参照することができる。

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント)

統合プロジェクトマネジメントプロセスの計画は、プロジェクト計画の計画(?)と、プロセスの監視・管理とを融合する。統合プロジェクトマネジメント(IPM)に関連したプラクティスの計画を実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセスの計画の一部であるとして扱われている(???)。統合プロジェクトマネジメント(IPM)の監視・管理関連のプラクティスを実行する計画は、プロジェクト計画(PP)プロセス領域内で記述されているプロジェクト計画に含めるか、参照することができる。

P.86

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

計測と分析プロセスの実行の為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域内で記述されたプロジェクト計画に含まれるか、参照されている可能性がある。

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

組織的プロセス定義プロセスの実行の為の計画は、組織のプロセス改善計画の一部であるか、もしくはこれに参照されている可能性がある。

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

よく「プロセス改善計画」と呼ばれている組織的プロセス焦点プロセスの実行の為の計画は、このプロセス領域内の特定プラクティスで記述されているプロセス行動計画とは異なっている。この一般プラクティス内で要求される計画は、経験に関係するプロセスの合併を通じた組織的プロセス需要の設立から、組織的プロセス資産にかけて、このプロセス領域内の特定プラクティスの全てを包括的に計画する事を取り扱っている。

OPM (Organizational Performance Management、組織の実績マネジメント)

組織の実績マネジメントプロセスを実行する為の計画は、このプロセス領域の明確な実績で記述されている配置計画とは異なっている。この一般実績で要求されている計画は、ビジネス目標の維持管理から改善効果の評価に至るまで、このプロセス領域の特定プラクティスの全てについての包括的計画を取り扱っている。それとは対照的に、特定プラクティスで要求されている配置計画は、選択された改善の配置に必要な計画を取り扱っている。

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

組織的プロセス実績プロセスを実行する為の計画は、組織的プロセス焦点プロセス領域内で記述されている組織のプロセス改善計画に含まれているか、これに参照されている。もしくは、組織的プロセス実績プロセスの為の計画だけを記述した、分離された計画内に記述されているかもしれない。

OT (Organizational Training、組織的訓練)

組織的訓練プロセスの実行の為の計画は、このプロセス領域の特定プラクティスに記述されている組織的訓練の為の戦術計画とは異なっている。この一般プラクティスで要求されている計画は、戦略訓練需要の設立から組織的訓練の効率の評価を通して、このプロセス領域の全ての特定プラクティスの包括的計画を取り扱っている。それとは対照的に、このプロセス領域の特定プラクティスで要求されている訓練の戦術的計画は、訓練提案の引渡の為の定期的計画を取り扱っている。

PI (Product Integration、製品統合)

製品統合プロセスの実行の為の計画は、幅広い製品統合の準備から最終製品の引渡に至るまでの、このプロセス領域の特定プラクティス全ての包括的計画を取り扱っている。

製品統合プロセスの実行の為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に記述されたプロジェクト計画の一部に含まれているか、もしくは参照されている。

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

プロジェクト監視と管理プロセスの実行の為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているように、プロジェクト計画の一部になるか、もしくはそれに参照される可能性がある。

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

一般プラクティス 2.2 とプロジェクト計画プロセス領域の間にある関係について、より詳細な情報を得たい場合には、一般大目標と一般プラクティスの表 6.2 を参照の事。

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

プロセスと製品の品質保証プロセスを実行する計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント)

定量的プロジェクトマネジメントプロセスを実行する計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

RD (Requirements Development、要求開発)

要求開発プロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

REQM (Requirements Management、要求マネージメント)

要求マネージメントプロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

RSKM (Risk Management、リスクマネージメント)

リスクマネージメントプロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。この一般プラクティスで要求されている計画は、このプロセス領域内の全ての一般プラクティスの為の包括的な計画を受け持っている。特に、この計画はリスク軽減の為の全体的なアプローチを提供しているが、明確なリスクの軽減計画（偶発的な計画を含む）とは異なっている。それとは対照的に、このプロセス領域の特定プラクティスで要求されているリスク軽減計画は、リスク操作行動の切っ掛けとなるレベルのような事項に、より焦点を置いている。

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネージメント)

供給者同意マネージメントプロセスを実行する計画のある部分は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。しかし、この計画の幾つかの部分は、契約マネージメントのようなグループを持つプロジェクトに属していない事が度々ある。

TS (Technical Solution、技術的解決)

技術的解決プロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

VAL (Validation、批准、確認)

確認プロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

VER (Verification、証明、相互検証)

検証プロセスを実行する為の計画は、プロジェクト計画プロセス領域に書かれているプロジェクト計画に含まれるか、もしくはそれに参照されている可能性がある。

GP 2.3 リソースの提供

プロセスの実行と、作業成果物の開発、そしてプロセスサービス提供の為に、十分なリソースを提供する。

この一般プラクティスの目的は、計画によって定義されたプロセスの実行に必要なリソースが、必要な時に利用可能になっていることを保証する事である。リソースには、十分な資金、適切な物理的施設、技能者、そして適当な道具が含まれる。

「十分な」という言葉の（具体的な数値等への）変換は多くの要因に依存しており、常に変化し続けている。リソースが不十分だった場合には、リソースを増加させるか、もしくは要求や強制、委託の削減を考慮しなければならない。

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・データベースマネジメントシステム
- ・プロセスモデリングツール
- ・統計分析パッケージ

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・概形マネージメントツール
- ・データマネージメントツール
- ・記録 (archiving) と再生 (reproduction) のツール
- ・データベースマネジメントシステム

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・シミュレーターとモデリングツール
- ・プロトタイピングツール
- ・調査を実施するツール

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・問題追跡とトラブル報告パッケージ
- ・グループウェア

- ・テレビ会議
- ・統合決定データベース
- ・統合製品支援環境

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

適当な技術的能力を持つスタッフが、計測活動と分析活動を支援する。そうした役割を持つ計測グループが存在していた方が良い。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・統計パッケージ
- ・ネットワーク上でのデータ収集を支援するパッケージ

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

プロセスグループは、一般的に組織的プロセス定義行動をマネージメントする。このグループは一般的に、組織的プロセス改善の調整に主要な責任を負っている専門家の中心的な人々によって構成されている。

このグループは、プロセスの所有者と、以下に挙げるような各種系統 (disipline) での専門的知識を持つ人々を支援する：

- ・プロジェクトマネージメント
- ・適当なエンジニアリング系統
- ・概形マネージメント
- ・品質保証

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・データベースマネージメントシステム
- ・プロセスモデリングツール
- ・Web ページ作成ツールと閲覧ツール

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・データベースマネージメントシステム
- ・プロセス改善ツール
- ・Web ページ作成ツールと閲覧ツール

- ・ グループウェア
- ・ 品質改善ツール（例、原因影響ダイアグラム、関係（affinity）ダイアグラム、パレットチャート（Pareto charts））

OPM（Organizational Performance Management、組織的実績マネジメント）

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ シミュレーションパッケージ
- ・ プロトタイピングツール
- ・ 統計パッケージ
- ・ ダイナミックシステムモデリング（dynamic system modeling）
- ・ オンライン技術データベースと出版物への署名（subscription）
- ・ プロセスモデリングツール

OPP（Organizational Process Performance、組織的プロセス実績）

組織の標準プロセスセットの為のプロセス実績ベースラインを設立するには、統計技術とその他の定量化技術において特殊な専門的技能が必要となる。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ データベースマネジメントシステム
- ・ システムダイナミクスモデル（system dynamics model）
- ・ プロセスモデリングツール
- ・ 統計分析パッケージ
- ・ 問題追跡パッケージ

OT（Organizational Training、組織的訓練）

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ その道の専門家（subject matter expert）
- ・ 履修課程デザイナー
- ・ 教育に関するデザイナー（instructional designer）
- ・ 教育者
- ・ 訓練権威者（training administrators）

特殊な施設が訓練に要求されることもある。組織的訓練プロセス領域の活動に必要な施設は、開発もしくは調達されなければならない。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 訓練需要を分析する機器
- ・ 訓練で使用する作業場
- ・ 教育用デザインツール

- ・表現素材を開発するパッケージ

PI (Product Integration、製品統合)

内外部のインターフェースを代表する人々で構成された、インターフェース管理ワーキンググループによって、製品コンポーネントインターフェースの調整が仕上げられる。こうしたグループは、インターフェース要求開発の需要を引き出す際にも使用される。

製品の組み立てと引渡しに特殊な施設が要求される事もある。必要ならば、製品統合プロセス領域の活動で必要となる施設を開発、もしくは調達しなければならない。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・プロトタイピングツール
- ・分析ツール
- ・シミュレーションツール
- ・インターフェースマネジメントツール
- ・組立ツール（例、コンパイラ、**make file**（コンパイルを行う際に使用するファイル）、合体ツール、治具、固定具）

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・コスト追跡システム
- ・作業（**effort**）報告システム
- ・要処理事項（**action item**）追跡システム
- ・プロジェクトマネジメントプログラムとスケジューリングプログラム

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

プロジェクト計画の為に、特殊な専門家や装備、施設が必要になる場合がある。

プロジェクト計画での特殊な専門家としては、以下のような人を挙げる事が出来る：

- ・経験のある評価者
- ・スケジュール担当者
- ・適用範囲の技術専門家（製品分野、技術、等）

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・スプレッドシートプログラム（**Excel** 等）
- ・評価モデル
- ・プロジェクト計画パッケージとスケジュールパッケージ

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・評価ツール
- ・不承諾（noncompliance）追跡ツール

QPM（Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント）

統計学の専門知識とそのプロセス実績の分析での使用とが、定量化マネジメントで使用される分析技術を定義する為に必要となる。統計学の専門知識はまた、統計分析から得られる計測結果を分析、変換する為にも必要となるが、これにはチームが行っている日常業務でのプロセス実績の基本的な理解を支援する為の十分な専門知識が、チームに必要なとなる。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・統計分析パッケージ
- ・統計プロセスと品質管理パッケージ
- ・追加の専門的支援の為に最小限の需要により、チームのプロセス実績を分析する際にチームを支援する、スクリプトとツール類

RD（Requirements Development、要求開発）

適用分野や、利害関係者から需要を引き出す手法、そして顧客や製品、製品コンポーネントの明記と分析の為に手法とツール類における、特別な専門的知識が要求される事もある。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・要求明確化ツール
- ・シミュレーションツールとモデリングツール
- ・プロトタイピングツール
- ・シナリオ定義ツールと、そのマネジメントツール
- ・要求追跡ツール

REQM（Requirements Management、要求マネジメント）

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・要求追跡ツール
- ・追跡遡上ツール（traceability tool）

RSKM（Risk Management、リスクマネジメント）

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・リスクマネジメントデータベース
- ・リスク緩和ツール

- ・プロトタイピングツール
- ・モデリングツールとシミュレーションツール

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネジメント)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・優良供給者リスト
- ・要求追跡ツール
- ・プロジェクトマネジメントプログラムとスケジューリングプログラム

TS (Technical Solution、技術的解決)

要求に対する解決を開発、デザイン、適用する為の特殊な施設が必要となる場合がある。その場合、技術的解決プロセス領域での活動で要求される施設を開発もしくは調達する。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・デザイン仕様ツール
- ・シミュレーションツールとモデリングツール
- ・プロトタイピングツール
- ・シナリオ定義とシナリオマネジメントツール
- ・要求追跡ツール
- ・相互参照ドキュメントツール (interactive documentation tool)

VAL (Validation、批准、確認)

製品もしくは製品コンポーネントを確認する為に必要な特殊な施設が必要になる事もある。その場合、確認に必要な施設を開発もしくは調達する。

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・テストマネジメントツール
- ・テストケース生成ツール
- ・テスト範囲分析ツール
- ・シミュレーター
- ・負荷、応力、機能テストツール

VER (Verification、証明、相互検証)

選択された作業成果物を検証する為に必要な特殊な施設が必要となる場合がある。その場合、検証プロセス領域の行動に必要な施設を、開発もしくは調達する。

検証手法の中には、特殊なツールや装置、施設、訓練を必要とするものもある（例えば、査読会 (peer review) は会議室、訓練された司会者を要求し、また別の検証テストでは特

殊なテスト装置やその装置の使用に精通した人が必要となる)

提供されるリソースの例としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・テストマネジメントツール
- ・テストケース生成ツール
- ・テスト範囲分析ツール
- ・シミュレーター

GP 2.4 責任所掌の割当 (Assign Responsibility)

プロセスの実行や作業成果物の開発、プロセスのサービス提供の為に、責任所掌と権威の割当を行う。

この一般プラクティスの目的は、プロセスの全期間を通して、プロセスの実行と明確な結果を達成する事に対する責任の存在を保証することである。担当した責任所掌を実行する為に責任担当者はそれに適した権威を持つ必要がある。

責任所掌は、詳細な作業記述を使用して割り当てられるか、もしくはプロセス実行の為に計画などのような運用中のドキュメントの中で示される。責任所掌の動的な割り当ては、責任所掌の割当と受理とがプロセスの全期間を通して保証される限り、この一般プラクティスの適用においては合理的なやり方の一つである。

サブプラクティス

1. プロセス実行の全体的な責任所掌と権威の割当
2. プロセスの明確な任務の実行の為に責任所掌と権威の割当
3. 責任所掌と権威とを割り当てられた人が、それらを理解し容認していることを確認する。

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

プロセス改善では、一般的に 2 つのグループに対して責任所掌を割り当てられる。

- (1) 上級のマネージメント後援を提供する、プロセス改善のマネージメント指導委員会
- (2) プロセス改善活動を容易にし、マネージメントを行うプロセスグループ

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

主観や偏向を防ぐ為の十分な独立性と客観性によって、プロセスと製品品質保証の評価を実行可能な人に対して責任所掌が割り当てられる。

TS (Technical Solution、技術的解決)

製品デザインと製品改良において、技術解決を監督し、また一貫性の維持管理を補助する全体的なデザイン決断の権威を持つ、リーダーもしくは主任設計者を任命する。

GP 2.5 訓練 (Train People)

必要に応じて、プロセスの実行もしくは支援を行う人を訓練する。

この一般プラクティスの目的は、作業者がプロセスを実行もしくは支援する為に必要な技能や専門知識を持っている事を保証する事である。

作業を実行する人に対して適当な訓練が提供される。作業を実行する人と相互関係を持つ立ち位置の人々に対しても、大まかな訓練が提供される。

提供される訓練手法の例としては、自習、自己指向訓練、自己プログラム教育、形式化された OJT、師弟教育 (mentoring)、公式の教室訓練等。

訓練は、プロセスに対する共通の理解を作り出し、プロセスを実行する為に必要な技術と知識とを与える事により、プロセスの実行を成功させるような支援を行う。

各自の役割を効率的にかつ効果的に実行させるための技術と知識の開発に関する詳細な情報が必要な場合には、組織的訓練プロセス領域を参照の事。

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・品質マネージメント手法 (根本原因分析など)

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・ 概形マネージメントスタッフの役割、責任所掌、権威
- ・ 概形マネージメント標準、手段、手法
- ・ 概形ライブラリシステム

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・ 公式決断分析
- ・ 基準に対する代替解決案の評価手法

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・ プロジェクトの需要に応じた、組織の標準プロセスセットのカスタマイズ
- ・ プロジェクト定義プロセスをベースにしたプロジェクトのマネージメント
- ・ 組織の測定保管庫の使用
- ・ 組織のプロセス資産の使用
- ・ 統合マネージメント
- ・ グループ間での調整
- ・ グループでの問題解決

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・ 統計学的技術
- ・ データ収集、分析、プロセスの報告
- ・ 測定に関係した目標の設定 (Goal Question Metric 手法など)

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・ CMMI と他のプロセスとプロセス改善参照モデル
- ・ プロセスの計画、マネージメント、監視
- ・ プロセスのモデリングと定義

- ・カスタマイズ可能な標準プロセスの開発
- ・作業環境標準の開発
- ・人間工学 (ergonomics)

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・CMMI と他のプロセス改善参照モデル
- ・プロセス改善の計画とマネージメント
- ・ツール、手法、分析技術
- ・プロセスモデリング
- ・組立技術
- ・変更マネージメント

OPM (Organizational Performance Management、組織的実績マネージメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・費用便益分析 (cost benefit analysis)
- ・案内人 (pilot) の計画、デザイン、指揮
- ・技術移転
- ・変更マネージメント

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・プロセスとプロセス改善のモデリング
- ・統計学的手法とその他の定量化手法 (モデル評価、パレット分析、管理チャート等)

OT (Organizational Training、組織的訓練)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・分析に必要な知識と技術
- ・教育デザイン
- ・教育技術 (訓練者の訓練など)
- ・主題事項の復習 (refresher training on subject matter)

PI (Product Integration、製品統合)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・適用領域
- ・製品統合の手段と基準

- ・統合と組立の為の組織の設備
- ・組立手法
- ・パッケージ化の標準

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・プロジェクトの監視と管理
- ・リスクマネジメント
- ・データマネジメント

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・見積もり (Estimating)
- ・予算 (Budgeting)
- ・交渉
- ・リスク認識と分析
- ・データのマネジメント
- ・計画
- ・スケジュール

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・適用領域
- ・顧客関係
- ・プロジェクトのプロセス記述、標準、手段、手法
- ・品質保証の目標、プロセス記述、標準、手段、手法、道具

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・修正行動が保証されている時に、プロセス実績の分析や過去データの使用、識別を補助する（統計学を含めた）基本となる定量化分析
- ・プロセスのモデリングと分析

- ・プロセス測定データの選択、定義、収集

RD (Requirements Development、要求開発)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・適用領域
- ・要求の定義と分析
- ・要求の引き出し
- ・要求仕様とモデリング
- ・要求追跡

REQM (Requirements Management、要求マネジメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・適用領域
- ・要求の定義、分析、批評、マネジメント
- ・要求のマネジメントツール
- ・概形マネジメント
- ・交渉と干渉解決

RSKM (Risk Management、リスクマネジメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・リスクマネジメントのコンセプトと行動（リスクの識別、評価、監視、緩和）
- ・リスク緩和の度合いの選択

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネジメント)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- ・供給者との交渉や協同作業に関係した、規則とビジネス実践
- ・調達計画と準備
- ・商用在庫品の調達（commercial off-the-shelf acquisition）
- ・供給者の評価と選択
- ・交渉と衝突解決
- ・供給者マネジメント
- ・調達製品の試験と配達
- ・調達製品の受け取り、保存、使用、維持管理

TS (Technical Solution、技術的解決)

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- 製品と製品コンポーネントの適用領域
- デザイン手法
- 建築（architecture）手法
- インターフェースデザイン
- ユニット試験技術
- 標準（生産、安全、人的要因、環境など）

VAL（Validation、批准、確認）

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- 適用領域
- 確認原理、標準、手法
- 使用目的（intended-use）環境

VER（Verification、証明、相互検証）

訓練項目の例としては、以下の物が挙げられる：

- 適用領域もしくはサービス領域
- 検証原理、標準、手法（分析、デモ、監査、試験など）
- 検証ツールと設備
- 査読会（peer review）の準備と手段
- 会議設備

GP 2.6 作業成果物の管理 (Control Work Products)

プロセスの選択された作業成果物を適切なレベルの管理下に置く

この一般プラクティスの目的は、プロセスの有効期間を通して、プロセス（もしくはプロセス記述）の選択された作業成果物の完全性を設立し、維持管理することである。

選択された作業成果物は、適当な管理レベルの仕様に沿って、プロセスの実行計画において特に識別される。

管理レベルは、それぞれが異なった作業成果物と、異なった時点とに対応している。幾つかの作業成果物では、その時点（現在であろうが過去であろうが）で使用されている作業成果物のバージョンが判明し、また変更がある管理ルールに沿って共有化されるように、バージョン管理を維持管理すれば、それで十分である。バージョン管理は、普通は作業成果物の持ち主（個人の他に、グループやチームの可能性もある）の単独の管理下に置かれる。

時には、作業成果物を公式もしくはベースラインの概形マネージメントの下に置く事が重要となる。このタイプの管理は、事前に決定された箇所におけるベースラインの定義と設立も含まれる。こうしたベースラインは公式に批評、受け入れが行われ、そして指定された作業成果物の将来の開発においても基準として用いられる。

概形認識、概形管理、概形状態考慮、概形監査を使用した作業成果物の完全性の設立と維持管理についての、より詳細な情報は、概形マネージメントプロセス領域を参照の事。

バージョン管理と公式概形マネージメントとの間に管理レベルを追加することも可能である。識別された作業成果物は、異なった時点において、色々な管理レベル下に置かれる事になる。

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 行動提案
- ・ 行動計画
- ・ 原因分析と解決の記録

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ アクセスリスト
- ・ 状態変更報告

- ・ 変更要求データベース
- ・ CCB (Configuration Control Board、概形管理委員会) 会議議事録 (meeting minutes)
- ・ 達成されたベースライン

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 公式評価プロセスを適用した時のガイドライン
- ・ 推奨される解決を含んだ、評価報告書

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネジメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ プロジェクトの定義プロセス
- ・ プロジェクト計画
- ・ プロジェクトに影響を与える他の計画
- ・ 統合された計画
- ・ プロジェクトによって管理される、実際のプロセスと生成物の測定法
- ・ プロジェクトの共有される未来像
- ・ チームの構造
- ・ チームの憲章 (charter)

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 測定目的
- ・ ベースとなる測定物と派生した測定物の仕様
- ・ データ収集とデータ保存の手段
- ・ ベース測定物と派生測定物のデータセット
- ・ 分析結果と報告書の草案 (draft report)
- ・ データ分析ツール

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 組織の標準プロセスのセット
- ・ ライフサイクルモデルの記述
- ・ 組織の標準プロセスセットのカスタマイズのガイドライン
- ・ 製品とプロセス測定の共通セットの定義
- ・ 組織の測定データ

- ・ チームの構成と形成の為のルールとガイドライン

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ プロセス改善提案
- ・ 組織が認可したプロセス行動計画
- ・ 組織のプロセス資産の配置に使用される訓練材料
- ・ 新しいプロジェクトでの組織の標準プロセスセットの配置に関するガイドライン
- ・ 組織のプロセス査定の為の計画

OPM (Organizational Performance Management、組織の実績マネジメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 改善の確認から得られた、ドキュメント化された教訓
- ・ 配置計画
- ・ 改良された改善計測、改善目的、改善優先度
- ・ 最新のものに更新されたプロセスドキュメントと訓練材料

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 組織の品質とプロセス実績目標
- ・ プロセス実績の選択された計測物の定義
- ・ 組織のプロセス実績上のベースラインデータ
- ・ プロセス実績モデル

OT (Organizational Training、組織的訓練)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 組織の訓練戦術計画
- ・ 訓練記録
- ・ 訓練材料と支援ツール
- ・ 教育者評価フォーム

PI (Product Integration、製品統合)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 受け取った製品コンポーネントの受領 (acceptance) ドキュメント
- ・ 評価された組立製品と製品コンポーネント
- ・ 製品統合戦略

- ・製品統合手段と基準
- ・最新版のインターフェース記述もしくは同意

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・状態付きのプロジェクトスケジュール
- ・プロジェクト計測データと分析
- ・達成額 (earned value) 報告

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・作業分解構造 (work breakdown structure)
- ・プロジェクト計画
- ・データマネジメント計画
- ・利害関係者巻き込み計画

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・非承認報告書 (non-compliance report)
- ・評価記録と報告書

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・プロジェクトの定義プロセスに含まれるべきサブプロセス
- ・計測の運用定義、サブプロセス内での計測値の収集点、計測値の完全性をどのように決定すべきか
- ・収集された計測値

RD (Requirements Development、要求開発)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・顧客の機能要求と品質属性要求
- ・要求された機能と品質属性の定義
- ・製品と製品コンポーネントの要求
- ・インターフェース要求

REQM (Requirements Management、要求マネージメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 要求
- ・ 要求追跡可能マトリクス (requirement traceability matrix)

RSKM (Risk Management、リスクマネージメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ リスクマネージメント戦略
- ・ 認識されたリスク項目
- ・ リスク緩和計画

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネージメント)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 作業の計算書 (statement)
- ・ 供給者同意
- ・ 同意覚書
- ・ 下請け契約
- ・ 優良供給者リスト

TS (Technical Solution、技術的解決)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 製品、製品コンポーネント、インターフェースのデザイン
- ・ 技術データパッケージ
- ・ インターフェースデザインドキュメント
- ・ 設計と製品コンポーネントの再利用についての基準
- ・ 適用されたデザイン (ソフトウェアコード、組立られた製品コンポーネント等)
- ・ ユーザー、インストール、運用、維持管理についてのドキュメンテーション

VAL (Validation、批准、確認)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 確認の為に選択された製品と製品コンポーネントのリスト
- ・ 確認手法、手段、基準
- ・ 確認報告

VER (Verification、証明、相互検証)

管理下に置かれる作業成果物の例は、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 検証手段と基準
- ・ 査読会訓練材料
- ・ 査読会データ
- ・ 検証報告

GP 2.7 利害関係者の認識と巻き込み (Identify and Involve Relevant Stakeholders)

計画されたプロセスの利害関係者の認識と、その巻き込み。

この一般プラクティスの目的は、プロセスの実行中に利害関係者のプロセスへの参加を設立し、維持管理することである。

参加させる利害関係者は、適当な計画の中で、利害関係者参加として記述する。利害関係者は、次に挙げるような活動のへ適当に関係付けるようにする。

- ・ 計画
- ・ 決定
- ・ 委託（同意）
- ・ 情報伝達（会話）
- ・ 調整
- ・ 内覧会（review）
- ・ 査定
- ・ 要求定義
- ・ 問題と事項の解決

利害関係者の関係付けの計画について、より詳細な情報が必要な場合は、プロジェクト計画プロセス領域を参照の事。

利害関係者の関係付けを計画する事の目標は、影響を受けるグループや個人の人数が過度に大きくなり、それによってプロセスの実行を妨害しないように、プロセスに必要な相互関係が完結されるように保証する事である。

利害関係者として扱うべき例としては、環境に依存するものの、個人やチーム、マネジメント、顧客、供給者、エンドユーザー、運用スタッフとサポートスタッフ、他のプロジェクト、政府監督官などの、明確な任務に就く人々である。

サブプラクティス (subpractices) :

1. このプロセスへの利害保持者の関係と、彼らの適当な関係の識別

プロセスへの入力を行う供給者、プロセスからの出力を受け取るユーザー、そしてプロセス行動の実行者の中から、利害関係者は識別される。一度利害関係者が識別されたら、プロセス活動での彼らの関係付けについての適したレベルが計画される。

2. この識別結果をプロジェクト計画者や他の適当なプロジェクト計画者と共有させる。

3. 計画された通りに利害関係者を参加させる

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・原因分析の指揮
- ・行動提案の評価

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ベースラインの設立
- ・概形マネージメントシステム報告と解決事項の批評
- ・概形事項の変更の衝撃の評価
- ・概形監査 (audit) の実行
- ・概形マネージメント監査の結果の批評

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・どの事項が公式評価プロセスを条件としているか、についてのガイドラインの設立
- ・取り扱うべき事項の定義
- ・評価基準の設立
- ・代替物の識別と評価
- ・評価手法の選択
- ・解決の選択

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・組織的プロセス資産のカスタマイズに関する事項の解決
- ・プロジェクト計画と、プロジェクトに影響を与える他の計画との間の事項の解決

- ・プロジェクトの進捗の批評と、現在の需要と計画された需要、目標、そして要求との調整の効果の批評
- ・プロジェクトの共有する未来像の作成
- ・プロジェクトでのチーム構造の定義
- ・チームへの配員（populating）

MA（Measurement and Analysis、計測と分析）

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・測定対象物と測定手段の設立
- ・測定データの評価
- ・分析と結果とが依存する計測元データを提供する責任者への意味のあるフィードバックの提供

OPD（Organizational Process Definition、組織的プロセス定義）

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・組織の標準プロセスセットの批評
- ・組織のライフサイクルモデルの批評
- ・ガイドラインのカスタマイズに関する事項の解決
- ・プロセスと製品の測定物の共通セットの定義の評価
- ・作業環境標準の批評
- ・やる気を出させる為のメカニズムの設立と維持管理
- ・チームの構成と形成についての組織的ルールとガイドラインの、設立と維持管理

OPF（Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点）

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・プロセス改善を行う際の、プロセスを実行するプロセス保持者と支援組織（訓練スタッフ、品質保証代表者など）との間での調整と協調
- ・組織的プロセス需要と目標の設立
- ・組織のプロセスの査定
- ・プロセス行動計画の適用
- ・選択した改善物のテストを行うパイロット版の実行における調整と協調
- ・組織的プロセス資産の配置と、組織的プロセス資産への変更
- ・プロセス改善の計画や適用、配置に関する、計画、状態、行動、結果の間での情報伝達

OPM (Organizational Performance Management、組織的実績マネジメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ ビジネス目標への合致に寄与する可能性のある改善提案の批評
- ・ 改善配置行動の迅速さ、状態、結果における、組織へのフィードバックの提供

フィードバックは一般的に以下に挙げるようなものになる：

- ・ 改善提案を提出した (submit) 人々に対して、彼らの提案の配置について伝える事
- ・ ビジネス実績とビジネス目標との比較結果を定期的に伝達する
- ・ 選択し配置した改善物の計画と状態を、利害関係者に定期的に知らせる
- ・ 改善選択と行動配置の概要を、準備し配布する

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ 組織の、品質とプロセス実績目標と、組織の優先度の設立
- ・ 組織のプロセス実績ベースラインに関する事項の批評と解決
- ・ 組織のプロセス実績モデルに関する事項の批評と解決

OT (Organizational Training、組織的訓練)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ 組織の訓練需要が合致する事を保証する為に、訓練需要と訓練効率についての議論を行う協調環境の設立
- ・ 訓練需要の識別
- ・ 組織的訓練戦術計画の批評
- ・ 訓練効率の評価

PI (Product Integration、製品統合)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ 製品統合戦略の設立
- ・ 完全性のためのインターフェース記述の批評
- ・ 製品統合手段と基準の設立
- ・ 製品と製品コンポーネントの組立と引渡し
- ・ 評価結果の伝達
- ・ 影響のある人々に、彼らのプロセス実績を改善する機会を与える為の、新しい、効果的な製品統合プロセスの伝達

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・計画に対するプロジェクトの評価
- ・委託と解決事項についての批評
- ・プロジェクトリスクについての批評
- ・データマネージメント行動についての批評
- ・プロジェクトの進捗についての批評
- ・修正行動を収束させるためのマネージメント

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・査定の設立
- ・プロジェクトリスクの完全性と正当性についての事項の批評と解決
- ・データマネージメント計画の批評
- ・プロジェクト計画の設立
- ・プロジェクト計画の批評と、作業とリソースについての事項の解決

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・プロセスと作業成果物の客観的評価の基準を設立する
- ・プロセスと作業成果物の評価を行う
- ・不承諾 (noncompliance) 事項の解決
- ・不承諾事項が解決されるまで追跡する

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネージメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・プロジェクトの目標を設立
- ・プロジェクトの品質目標とプロセス効率目標とに含まれる事項を解決する
- ・使用する分析技術を選択する
- ・選択されたサブプロセスのプロセス効率を評価する
- ・プロセス品質目標とプロセス効率目標を達成する際のリスクを識別し、マネージメントを行う
- ・どの修正行動を採るべきか、識別する

RD (Requirements Development、要求開発)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・需要の合致 (meeting needs)、期待、強制、インターフェースにおける要求の適切さを批評
- ・運用コンセプトと、運用・維持・開発シナリオの設立
- ・要求の適切性の評価 (assess) を行う
- ・顧客要求の優先度付け
- ・製品と製品コンポーネントの、機能・品質属性要求の設立
- ・生産コスト、スケジュール、リスクの評価 (assess)

REQM (Requirements Management、要求マネージメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・要求を理解する際に出現した事項の解決
- ・要求変更の衝撃の評価
- ・双方向追求性 (bidirectional traceability) の伝達
- ・要求、プロジェクト計画、作業成果物にある不承諾の識別

RSKM (Risk Management、リスクマネージメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・リスクに関する自由で開かれた議論を行う為の協調環境の設立
- ・リスクマネージメント戦略とリスク軽減計画の批評
- ・リスク識別、分析、軽減行動への参加
- ・リスクマネージメント状態の伝達と報告

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネージメント)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・潜在的供給者の評価の為の基準の設立
- ・潜在的供給者の批評
- ・供給者同意 (supplier agreement、契約時に交わす定型文書) の設立
- ・供給者にある問題事項の解決
- ・供給者実績の批評

TS (Technical Solution、技術的解決)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ 代替解決案と選択基準の作成
- ・ 外部インターフェースの仕様と設計記述での、合意の形成
- ・ 技術データパッケージの開発
- ・ 製品コンポーネントの代替物の作成、購入、再利用についての評価
- ・ 設計の適用

VAL (Validation、批准、確認)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ 確認されるべき製品と製品コンポーネントの選択
- ・ 確認手法、手段、基準の評価
- ・ 製品と製品コンポーネントの確認結果の批評と、問題点の解決
- ・ 顧客もしくはエンドユーザーと共同での問題解決

顧客もしくはエンドユーザーにおける問題は、特に彼らのベースライン要求と著しく異なっている場合には解決が望まれる。解決には以下のようなものが含まれる：

- ・ 契約もしくは同意の放棄（waiver）（何を、いつ、どの製品に対して）
- ・ 徹底的（in-depth）な追加的研究、指向、テスト、評価
- ・ 契約もしくは同意の中で可能な変更

VER (Verification、証明、相互検証)

利害関係者の関係づけ行動の例は以下の物を含む：

- ・ 検証の為の作業成果物と手法の選択
- ・ 検証手段と基準の設立
- ・ 査読会（peer reviews）の実施
- ・ 検証結果の評価と、修正行動の識別

GP 2.8 プロセスの監視と管理 (Monitor and Control the Process)

プロセス実行計画に基づき、プロセスの監視と管理を行い、適切な修正行動を採る

この一般プラクティスの目的は、プロセスを毎日直接監視し、管理する事である。必要な際に適切な修正行動を採れるように、プロセスに対して適切な可視化が維持されていなければならない。プロセスの監視と管理には、プロセスもしくはプロセスによって生成される作業成果物の適切な属性を測定することも含まれる。

維持管理情報需要を支援する為に使用される測定可能性の開発と維持についての、より詳細な情報が必要な際は、測定と分析プロセス領域を参照の事。

プロジェクトの進捗を理解し、それによってプロジェクト実績が計画から著しく外れた時に適切な修正活動を実施可能とする事についての、より詳細な情報が必要な際は、プロジェクト監視と管理プロセス領域を参照の事。

サブプラクティス：

1. プロセス実行計画に対する、実際の進捗と実績とを評価する
(評価は、プロセスやその作業成果物、プロセスのサービスから求められる。)
2. プロセス実行計画に対する、プロセスの達成度と結果とを批評する
3. プロセスと識別された問題点に責任を持ち得るマネージメントの現在 (immediate) レベルにおける、プロセスの活動、状態、結果の批評

(こうした批評は、日々のプロセス監視と管理を基にしたプロセスへの適切な可視化により、マネージメントの現在レベルの提供を意図しており、また GP 2.10 で記述されている高位レベルマネージメントでの定期的批評とイベント起因による批評によって補強される)

4. プロセス実行計画からの顕著な逸脱の影響の識別と評価
5. プロセス実行計画と、プロセスの実施における問題点の識別
6. 要求と目標とが満足されていない時、問題点が識別された時、もしくはプロセスの進捗がプロセス実行計画から著しく逸脱した時に、修正行動を採る。

修正行動を採る前に、内在するリスクを考慮すべきである

修正行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・欠陥のある作業成果物もしくはサービスの補修を行う為の改善的 (remedial) 行動の実施
- ・プロセス実行計画の変更
- ・人や道具等のリソースの調整
- ・設立済の委託に対する変更交渉
- ・要求と目的とが満足されるように変更を行う事を保証する

- ・ 努力（effort）の中断

7. 修正行動を完了するまで追跡する

CAR（Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決）

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 分析する入力の数
- ・ 原因分析と解決プロセスの具体数（instance）毎での、品質もしくはプロセス実績の変更
- ・ 選択された行動提案の適用活動の為のスケジュール作成

CM（Configuration Management、概形マネージメント）

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 概形事項についての変更の個数
- ・ 実施中の概形監査の数
- ・ CCB（Configuration Control Board、概形管理委員会）もしくは監査行動のスケジュール

DAR（Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決）

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 公式評価プロセスを使用した、費用対効果（cost to benefit）の比率
- ・ トレードオフ研究（trade study）の実行スケジュール

IPM（Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント）

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ プロジェクト定義プロセスの変更の数
- ・ 組織の標準プロセスセットのカスタマイズ作業とスケジュール
- ・ インターフェース調整事項の傾向（認識された数や閉じられた数、など）
- ・ プロジェクトカスタマイズ行動のスケジュール
- ・ プロジェクトの共通ビジョンの利用と効率
- ・ チーム構造の利用と効率
- ・ チーム憲章（charter）の利用と効率

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・進捗と実績計測を使用しているプロジェクトの割合
- ・計測された計測目標の割合
- ・計測データの収集と批評のスケジュール

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・組織の標準プロセスのプロセスアーキテクチャーとプロセス要素とを使用しているプロジェクトの割合
- ・組織の標準プロセスセットの各プロセス要素の欠陥密度 (defect density)
- ・プロセスの開発もしくはプロセス変更のスケジュール

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・受付、認可、適用の成された、プロセス改善提案の数
- ・得られた、CMMI 熟成レベルもしくは実行可能性レベル
- ・組織的プロセス資産の配置スケジュール
- ・現在の組織の標準プロセスセット（もしくは現在のセットをカスタマイズしたバージョン）を使用しているプロジェクトの割合
- ・組織の標準プロセスセットの適用に関係する事項の傾向（識別された事項の数、解決された事項の数、など）
- ・プロセスの需要と目標の達成に向けた進捗

OPM (Organizational Performance Management、組織の実績マネジメント)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ビジネス目標に関係する品質とプロセス実績での変更
- ・改善の適用と確認のスケジュール
- ・選択された改善の配置行動の為のスケジュール

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・作業成果物と任務の属性（サイズの拡大、努力、スケジュール、品質など）での変更に関する組織の標準プロセスにおける傾向
- ・プロセス実績ベースラインの設立に使用される計測法の収集と批評の為のスケジュール

OT (Organizational Training、組織的訓練)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 実行された (delivered) 訓練コースの数 (計画対実際、など)
- ・ トレーニング後の評価格付け
- ・ 訓練プログラムの品質調査格付け
- ・ 訓練の実施スケジュール
- ・ コースの開発スケジュール

PI (Product Integration、製品統合)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 製品コンポーネント統合概要 (profile) (組立済ならびに実行済の製品コンポーネント組立、発見された例外の数、など)
- ・ 統合評価問題報告の傾向 ((報告書に) 書かれている数、解決した数、など)
- ・ 統合評価問題報告の熟成 (aging) (各問題報告がどのくらいの間開かれていたか)
- ・ 明確な統合行動の実行の為のスケジュール

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 実施中と実施済の修正行動の数
- ・ 毎月の資金データの収集、分析、報告についての状態についてのスケジュール
- ・ 実行された批評の数と種類
- ・ 批評スケジュール (計画対実績、漏れた目標データ)
- ・ 監視データの収集と分析の為のスケジュール

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 計画の改訂の数
- ・ 計画の各改訂毎のコスト、スケジュール、努力 (effort) の分散 (variance)
- ・ プログラム計画の開発と維持管理のスケジュール

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 計画、実行された客観的プロセス評価の分散
- ・ 計画、実行された客観的作業成果物評価の分散
- ・ 客観的評価のスケジュール

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・プロジェクト目標の達成におけるリスク、もしくは達成に寄与するキーとなるものについて、洞察を与えるプロセス実績を持つサブプロセス属性の概要（統計的技術を通して監視の為に選択された数、現在監視中の物の数、プロセス実績が安定しているものの数）
- ・認識された変化量についての明確な原因の数
- ・定量的マネジメント活動に関係している場合、測定と分析サイクルにおけるデータ収集、分析、報告活動のスケジュール

RD (Requirements Development、要求開発)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・修正（rework）に費やされるコスト、スケジュール、努力
- ・要求仕様の欠陥密度
- ・要求セットを開発する活動のスケジュール

REQM (Requirements Management、要求マネジメント)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・要求の変更頻度（volatility）（要求変更の割合）
- ・要求の調整スケジュール
- ・提案された要求変更の分析スケジュール

RSKM (Risk Management、リスクマネジメント)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・識別、マネジメント、追跡、管理されているリスクの数
- ・各評価済リスク毎の、またマネジメント予約（reserve）の割合の概要としての、リスク暴露（risk exposure）とリスク暴露に対する変更
- ・リスク軽減計画の為に活動（プロセス、スケジュール、資金調達（funding））
- ・予期せぬリスクの発生
- ・リスクカテゴリー分けの頻度
- ・見積もられたものと、実際のリスク軽減努力と衝撃との比較
- ・リスク分析活動の為にスケジュール
- ・明確な軽減のための行動のスケジュール

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネジメント)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 供給者に対する要求で為された変更の数
- ・ 供給者同意によるコストとスケジュールの不一致 (variance)
- ・ 供給者の選択と、同意の形成の為のスケジュール

TS (Technical Solution、技術的解決)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 修正の為に消費されるコスト、スケジュール、努力
- ・ 製品もしくは製品コンポーネントの設計で取り扱われる要求の割合
- ・ 製品、製品コンポーネント、インターフェース、ドキュメンテーションのサイズと複雑さ
- ・ 技術解決作業成果物の欠陥密度
- ・ 設計活動のスケジュール

VAL (Validation、批准、確認)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 完了した確認活動の数 (計画対実施)
- ・ 確認問題報告の傾向 (報告書中の数、解決済の数、など)
- ・ 確認問題報告の熟成 (各問題の未解決である期間)
- ・ 明確な確認活動の為のスケジュール

VER (Verification、証明、相互検証)

監視と管理に使用される測定法と作業成果物の例は、以下のようなものがある：

- ・ 検証の概要 (計画中と実行済の検証、欠陥が発見された検証、もしくは検証手法や検証タイプによって分類された欠陥の、それぞれの数、等)
- ・ 欠陥カテゴリー (defect category) によって発見された欠陥の数
- ・ 検証問題報告の傾向 (報告書に記載された数、解決済みの数、など)
- ・ 検証問題報告の状態 (各問題報告の未解決である期間)
- ・ 明確な検証活動の為のスケジュール
- ・ 査読会 (peer review) の効率

GP 2.9 客観的評価の維持 (Objectively Evaluate Adherence)

プロセス記述、標準、手段、そして不承諾の処理に対するプロセスと選択された作業成果物の、客観的評価の維持

この一般プラクティスの目的は、プロセスと選択された作業成果物が、計画通りに適用され、プロセス記述や標準、手段を順守していることを高い信頼性で保証する事である。(用語集の「客観的評価」の定義を参照)

(プロセスと作業成果物の客観的評価について詳細な情報が必要な場合は、プロセスと製品品質保証プロセス領域を参照の事。)

一般には、プロセス活動のマネージメントや実行に直接責任を持たない人が、順守の評価を行う。多くの場合では組織内の人、といってもプロセスやプロジェクトの外部にある人が順守評価を行うが、組織外の人が行う場合もある。これにより、例えプロセスが非常時(スケジュールが遅延していたり、予算がオーバーしていたり)でも、信頼性の高い順守の保証を行う事が可能となるのである。

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 入力の原因を決定
- ・ 行動計画の結果を評価

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 適用の為に選択された行動提案
- ・ 原因分析と解決の記録

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ ベースラインの設立
- ・ 変更の追跡と管理
- ・ ベースラインの完全さ (integrity) の設立と維持管理

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ ベースラインの達成
- ・ 変更要求のデータベース

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 設立された基準と手法を使用しての代替案の評価

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 公式の評価プロセスをどの時点で適用するかについてのガイドライン
- ・ 推奨される解決案を含む、評価報告書

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネジメント)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ プロジェクトの定義プロセスの設立、維持管理、使用
- ・ 利害関係者との調整と共同作業
- ・ プロジェクトの共通のビジョンの使用
- ・ チームの組織

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ プロジェクトの定義プロセス
- ・ プロジェクト計画
- ・ プロジェクトに影響を与える他の計画
- ・ 作業環境標準
- ・ 共通ビジョンの説明書 (statement)
- ・ チーム構造
- ・ チーム憲章 (charter)

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 測定法の調整と分析活動
- ・ 測定結果の提供

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ ベースとなる測定法と派生した測定法の仕様
- ・ データの収集と貯蔵の手段
- ・ 分析結果と下書きの報告書 (draft report)

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 組織的プロセス資産の設立
- ・ チームの構成と形成の為のルールとガイドラインの決定

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 組織の標準プロセスのセット
- ・ ライフサイクルモデルの記述
- ・ 組織の標準プロセスセットのカスタマイズのガイドライン
- ・ 組織の測定データ
- ・ 人やチームにモチベーションを与える (empowerment) ルールとガイドライン
- ・ 組織的プロセスドキュメント

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ プロセスの改善機会の決定
- ・ プロセス改善行動の計画と調整
- ・ プロジェクト開始時の、プロジェクトへの組織の標準プロセスセットの配置

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ プロセス改善計画
- ・ プロセス行動計画
- ・ プロセス配置計画
- ・ 組織のプロセス査定の為の計画

OPM (Organizational Performance Management、組織の実績マネジメント)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 識別されたビジネス目標に合致する組織の能力の決定を行う為の、プロセス実績データの分析
- ・ 定量的分析を使用した改善の選択
- ・ 改善の配置
- ・ 統計技術と他の定量的技術を使用した改善配置の効果の測定

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 改善提案
- ・ 計画の配置

- ・改善測定、目標、優先度、配置計画の改訂
- ・プロセスドキュメンテーションと訓練材料の最新化

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・プロセス実績のベースラインとモデルの設立

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・プロセス実績ベースライン
- ・組織の品質目標とプロセス実績目標
- ・プロセス実績の選択された計測法の定義

OT (Organizational Training、組織的訓練)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・訓練需要の識別と、訓練の実行可能化
- ・必要な訓練の提供

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・組織的訓練戦術計画
- ・訓練材料と支援道具 (artifact)
- ・教育者評価フォーム

PI (Product Integration、製品統合)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・製品統合戦略の設立と維持管理
- ・インターフェース互換性の保証
- ・製品コンポーネントの組立と製品の引渡し

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・製品統合戦略
- ・製品統合手段と基準
- ・受け取った製品コンポーネントの為のドキュメントの受理 (acceptance)
- ・組み立てられた製品と製品コンポーネント

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・プロジェクト計画に対する、プロジェクトの進捗と実績の監視
- ・解決の為に修正行動のマネジメント

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・プロジェクトの進捗と実績の記録
- ・プロジェクト批評の結果

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・見積書 (estimates) の作成
- ・プロジェクト計画の開発
- ・プロジェクト計画への委託の取り付け

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・WBS (Work Breakdown Structure)
- ・プロジェクト計画
- ・データマネジメント計画
- ・利害関係者巻き込み計画

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・プロセスと作業成果物の客観的評価
- ・不承諾事項の追跡と伝達

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・不承諾報告書
- ・記録 (log) と報告の評価

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・品質目標とプロセス実績目標を使用したプロジェクトのマネジメント
- ・統計技術とその他の定量化技術を使用して選択されたサブプロセスのマネジメント

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・プロジェクトの定義プロセスの組成（composition）
- ・計測法の運用定義
- ・プロセス実績分析報告書
- ・収集された計測物

RD（Requirements Development、要求開発）

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・利害保持者の需要の収集
- ・製品と製品コンポーネントの機能属性要求と品質属性要求の定型化（formulate）
- ・製品コンポーネントが、どのように組織され、また明確な個々の機能的要求と品質属性要求とを達成するように設計されているかを示した、構築物的（architectural）要求の定型化
- ・製品要求と製品コンポーネント要求の分析と確認

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・製品要求
- ・製品コンポーネント要求
- ・インターフェース要求
- ・要求される機能的属性と品質属性の定義
- ・構築物的で明確な品質属性要求

REQM（Requirements Management、要求マネジメント）

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・要求のマネジメント
- ・プロジェクト計画と作業成果物、要求の間の調整の保証

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・要求
- ・要求追跡可能性マトリクス

RSKM（Risk Management、リスクマネジメント）

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・リスクマネジメント戦略の設立と維持管理
- ・リスクの識別と分析
- ・リスク軽減

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ リスクマネジメント戦略
- ・ リスク軽減計画

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネジメント)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 供給者同意書の設立と維持管理
- ・ 供給者同意書を満足させる

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 供給者同意書マネジメントの為の計画
- ・ 供給者同意書

TS (Technical Solution、技術的解決)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 製品コンポーネント解決の選択
- ・ 製品設計と製品コンポーネント設計の開発
- ・ 製品コンポーネント設計の適用

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 技術データパッケージ
- ・ 製品設計、製品コンポーネント設計、インターフェース設計
- ・ 適用された設計（ソフトウェアコード、組み立てられた製品コンポーネントなど）
- ・ ユーザー、装着（installation）、維持管理の各ドキュメント

VAL (Validation、批准、確認)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 確認する為の製品と製品コンポーネントの選択
- ・ 確認手法、手段、基準の設立と維持管理
- ・ 製品と製品コンポーネントの維持管理

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 確認手法
- ・ 確認手段
- ・ 確認基準

VER (Verification、証明、相互検証)

批評される行動としては、以下のようなものが挙げられる：

- ・ 検証の為の作業成果物の選択
- ・ 検証手段と基準の設立と維持管理
- ・ 査読会（peer review）の実行
- ・ 選択された作業成果物の検証

作業成果物としては以下のものが挙げられる：

- ・ 検証手段と基準
- ・ 査読会でのチェックリスト
- ・ 検証報告書

GP 2.10 より高位のマネージメントによる現状の批評 (Review Status with Higher Level Management)

プロセスの行動、事態、そして結果を、より高位レベルのマネージメントによって批評し、問題を解決する

この一般プラクティスの目標は、より高位レベルのマネージメントによって、適切な可視性をプロセスに導入する事である。

高位レベルのマネージメントには、プロセスの責任を持つ当のマネージメントレベルよりも上のレベルのマネージメントが含まれる。つまり、高位レベルのマネージメントは上級マネージメントを含んでいると言える。これらの批評は、プロセスの為のポリシーと全体的なガイドラインを提供するマネージャーの為のものであり、日々、プロセスと直接監視、管理しているマネージャーの為のものではない。

プロセスの情報に対して、異なったマネージャーは異なった需要を持っている。こうした批評によって、プロセスの計画や実行に活気を与えられる事になる。そのため、こうした批評は定期的にかつイベント毎に行われるべきである。

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

こうした批評は一般に、プロセスグループとプロセス実行チームとによって、マネジメント指導委員会 (management steering committee) に対し、簡単な説明会 (briefing) という形式で行われる。

発表会の項目として、以下のようなものが挙げられる：

- ・プロセス実行チームによって開発されている改善の状況
- ・パイロットテスト (pilot) の結果
- ・配置の結果
- ・重要な節点 (milestone) を成し遂げる為のスケジュール現状 (status) (査定の準備状態や、目標としている組織の熟成レベルもしくは実行可能レベル概要の達成への進捗、など)

OPM (Organizational Performance Management、組織的実績マネージメント)

こうした批評は一般的に、改善実行に責任を持つ人によって、上位レベルマネージメントに対し、簡単な説明会の形式で行われる。

発表会の項目として、以下のようなものが挙げられる：

- ・ビジネス目標と比較した現在の実績の分析から認識された改善範囲
- ・プロセス改善誘発 (elicitation) 活動と分析活動の結果
- ・予期された利益と比較した確認活動 (パイロットテストなど) の結果
- ・改善を配置した後の実績データ
- ・配置されたコスト、スケジュール、リスク
- ・未達成のビジネス目標によるリスク

REQM (Requirements Management、要求マネージメント)

組織の外部に対してなされている委託への変更要求は、高位レベルのマネージメントに批評してもらうことで、全ての委託が受託可能である事を保証する。

RSKM (Risk Management、リスクマネージメント)

プロジェクトリスクの露見と適切な修正行動の潜在性を可視化する為に、適切なレベルのマネージメントと共に、プロジェクトリスクの批評を定期的にかつイベント毎に行う。

一般的に、こうした批評は、最も危険性の高いリスクの概要や、重要なリスクパラメータ (頻度や連続したリスクなど)、そしてリスク軽減努力の現状を含んでいる。

GG 3 定義プロセスの制度化 (Institutionalize a Defined Process)

プロセスは、定義プロセスとして制度化される

GP 3.1 定義プロセスの設立 (Establish a Defined Process)

定義プロセスの記述の設立と維持管理

この一般プラクティスの目的は、明確な具体的事象の需要を満たすように組織の標準プロセスセットをカスタマイズしたプロセスの記述を設立し、維持管理することである。組織は、プロセス領域をカバーする標準プロセスを持つだけでなく、プロジェクトや組織機能の需要に合致するこうした標準プロセスをカスタマイズするガイドラインをも持つべきである。定義プロセスにより、組織を通してプロセスがどのように実行されるかという変化性が低減され、プロセス資産やデータ、教訓を効率的に共有する事が可能となる。

(プロジェクトの定義プロセスの設立についての詳細な情報が必要な場合は、統合プロジェクトマネジメントプロセス領域を参照の事)

(標準プロセスの設立と、カスタマイズ基準とガイドラインの設立についての詳細な情報が必要な場合は、組織的プロセス定義プロセス領域を参照の事)

サブプラクティス：

1. 組織の標準プロセスから、プロセス領域をカバーし、プロジェクトもしくは組織機能の需要に最も合ったプロセスを選択する。
2. 組織のカスタマイズガイダンスに従って選択したプロセスをカスタマイズすることで、定義プロセスを設立する。
3. この定義プロセスにおいて、組織のプロセス目標が適切に取り扱われていることを保証する。
4. 定義プロセスと、カスタマイズの記録をドキュメント化する。
5. 必要に応じて、定義プロセスの記述を改訂してゆく。

GP 3.2 経験に関係するプロセスの収集 (Collect Process Related Experiences)

組織のプロセスとプロセス資産の将来における使用と改善とを支援する為に、計画時とプロセス実行時との間の差分経験に関係するプロセスを収集する。

この一般実績の目的は、計画時とプロセス実行時とで情報と機構 (artifact) とが異なっていた経験に関係するプロセスを収集する事である。差分経験に関係するプロセスの例は、作業成果物、測定法、測定結果、教訓、プロセス改善提案などがある。情報と機構とを収集することで、組織のプロセス資産に取り込むことが可能となり、また同一もしくは似たプロセスの計画と実行を行う人が利用可能となる。情報と機構とは、組織の測定結果貯蔵庫と組織のプロセス資産ライブラリに収納される。

関係情報の例としては、各種の活動で消費される努力や、明確な活動で取り込まれたり排除される欠陥、教訓等が挙げられる。

(組織的プロセス資産への寄与についての詳細情報は、統合プロジェクトマネジメントプロセス領域を参照の事)

(組織的プロセス資産の設立についての詳細情報は、組織的プロセス定義プロセスを参照の事)

サブプラクティス：

1. 組織の測定結果貯蔵庫に、プロセスと製品の測定器 (measures) を保存する。
プロセスと製品の測定器とは、主に組織の標準プロセスセットの為の共通の測定器において定義されている測定器のことである。
2. 組織のプロセス資産ライブラリへの含有の為のドキュメントを認可する
3. 組織のプロセス資産ライブラリへの含有の為のプロセスから得られた教訓をドキュメント化する
4. 組織的プロセス資産の改善を提案する

CAR (Causal Analysis and Resolution、原因分析とその解決)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 行動提案
- ・ 現在実行中の行動計画の数と、その実行期間の長さ
- ・ 行動計画現状 (status) 報告

CM (Configuration Management、概形マネージメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 概形項目の現状の傾向
- ・ 概形監査 (audit) 結果
- ・ 変更要求店晒し (aging) 報告

DAR (Decision Analysis and Resolution、決定分析とその解決)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 考慮された代替案の数
- ・ 評価結果
- ・ 重要な事項に対して推奨される解決案

IPM (Integrated Project Management、統合プロジェクトマネージメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ プロジェクトの定義プロセス
- ・ プロジェクトがその定義プロセスを作成する為にカスタマイズしたオプションの数
- ・ インターフェース調整項目の傾向 (識別された数、調整済みの数など)
- ・ プロジェクトメンバーによってプロジェクト計画を立てる際に関係した資産に対して、プロセス資産ライブラリがアクセスされた回数
- ・ 電話会議やテレビ会議などの協調作業機器を使用して開催された会議と、顔と顔を突き合わせて開催された会議とでの、費用の記録
- ・ プロジェクトの共用バージョン
- ・ チーム憲章

MA (Measurement and Analysis、計測と分析)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 情報の流通 (currency) 状態
- ・ データ健全性テストの結果
- ・ データ分析報告

OPD (Organizational Process Definition、組織的プロセス定義)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 教訓の、組織のプロセス資産ライブラリーへの服従 (submission)
- ・ 計測データの、組織の計測貯蔵庫への服従
- ・ 組織の標準プロセスの更新に従う変更要求の状態
- ・ 非標準カスタマイズ要求の記録

OPF (Organizational Process Focus、組織的プロセス焦点)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・プロセス改善候補の優先度付けに使用される基準
- ・組織のプロセスの長所と短所とを取り扱った査定での発見物 (appraisal findings)
- ・スケジュールに対する、改善活動の状態
- ・組織の標準プロセスセットのカスタマイズと、カスタマイズされたプロセスの識別されたプロジェクトへの適用についての記録

OPM (Organizational Performance Management、組織的実績マネジメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ビジネス目標との比較によって、プロセス実績データの分析で得られた教訓
- ・改善の適用と配置とによってかかったコストと得られた利益についての計測をドキュメント化したもの
- ・改善効果の潜在性を識別する為に、似た開発プロセス同士の比較を行った報告

OPP (Organizational Process Performance、組織的プロセス実績)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・プロセス実績ベースライン
- ・プロセス実績測定定義での不一致が原因で排除された測定データの割合

OT (Organizational Training、組織的訓練)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・訓練効果調査の結果
- ・訓練プログラム実績評価 (assessment) 結果
- ・(訓練) コースの評価
- ・助言グループからの訓練要求

PI (Product Integration、製品統合)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・製品コンポーネントの領収書や、予想報告、概形状態の確認、そして準備確認の結果といった記録
- ・製品統合で消費した開発努力の合計の割合 (実際のデータに完成させる為に必要な分を加える)
- ・製品統合の最中に製品とテスト環境で見つかった欠陥
- ・製品統合における問題報告書

PMC (Project Monitoring and Control、プロジェクト監視と管理)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 重要な差分の記録
- ・ 差分を構成するもののための基準
- ・ 修正行動の結果

PP (Project Planning、プロジェクト計画)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ プロジェクトデータライブラリ構造
- ・ プロジェクト属性評価
- ・ リスクの衝撃と、発生する可能性の大きさ

PPQA (Process and Product Quality Assurance、プロセスと製品の品質保証)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 評価記録 (log)
- ・ 品質の傾向
- ・ 不承諾報告
- ・ 修正行動の現状報告
- ・ プロジェクトの為の品質報告にかかったコスト

QPM (Quantitative Project Management、定量的プロジェクトマネジメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ プロジェクトの中間目標に対するマネジメントの為に選択されたサブプロセスのプロセス実績についての定期的な批評から得られた結果を含む、プロジェクトからの定量的マネジメントデータの記録
- ・ プロセス実績モデルに対して提案された改善

RD (Requirements Development、要求開発)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 曖昧 (ambiguous) だと判明した製品に対する要求リスト
- ・ プロジェクトのライフサイクルの各フェーズにおいて解決された (introduce) 要求の数
- ・ 要求分配 (allocation) プロセスからの教訓

REQM (Requirements Management、要求マネージメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 要求追求可能マトリクス
- ・ ベースライン以降で認識されなかった要求変更の数
- ・ 曖昧な要求の解決での教訓

RSKM (Risk Management、リスクマネージメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ リスクパラメータ
- ・ リスクカテゴリ
- ・ リスク状態報告

SAM (Supplier Agreement Management、供給者同意マネージメント)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 供給者批評の結果
- ・ 供給者を選択する為に使用する、商売 (trade) 研究
- ・ 供給者同意書の改訂番号の履歴
- ・ 供給者実績報告

TS (Technical Solution、技術的解決)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 作成、購入、再利用分析の結果
- ・ 設計の欠陥密度
- ・ 新しい手法と道具の適用結果

VAL (Validation、批准、確認)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・ 製品コンポーネントの試作品
- ・ 確認環境が利用可能だった時間の割合
- ・ 開発フェーズ毎の、確認によって発見された製品の欠陥の個数
- ・ 確認分析報告

VER (Verification、証明、相互検証)

差分経験に関係するプロセスの例は、以下のものを含んでいる：

- ・実施回数と平均準備時間を含む、査読会 (peer review) の記録
- ・開発フェーズ毎の、検証によって発見された製品欠陥の数
- ・検証と分析報告

一般プラクティスの適用 (Applying Generic Practices)

一般プラクティスは、全てのプロセス領域で適用可能なコンポーネントである。リマインダー (reminder、合図、催促状) だと考えれば良い。一般プラクティスは、直ぐにすべき事がある事を知らせる目的を持ち、そして期待されたモデルコンポーネントである (?)。

例えば、「プロセス実行の為の計画の立案と維持管理 (GP 2.2)」という一般プラクティスを考えてみよう。これをプロジェクト計画プロセス領域に適用すると、一般プラクティスはプロジェクトの計画の作成に関係する行動を計画するように合図を送る。また、組織訓練プロセス領域で適用すると、同じ一般プラクティスは、組織の人の技能と知識の開発に関係した行動を計画するように合図を送るのである。

一般プラクティスをサポートするプロセス領域 (Process Areas that Support Generic Practice)

一般大目標と一般プラクティスとが、組織を横断するプロセスの制度化を直接取り扱ったモデルコンポーネントである一方で、多くのプロセス領域も同様に、一般プラクティスの適用を支援することによって制度化を取り扱っている。こうした関係を知る事で、一般プラクティスを効率的に適用する事が出来るようになる。

こうしたプロセス領域は、適用を行う時にそのまま一般プラクティスをも適用可能か、もしくは一般プラクティスので機能で使われる作業成果物を生成する事が可能な、1つかそれ以上の数の特定プラクティスを含んでいる。

概形マネージメントプロセス領域とその GP2.6 である「適切な管理レベルの下にあるプロセスの作業成果物を選択してください」を例にとると、一つかそれ以上のプロセス領域にこの一般プラクティスを適用する為には、概形マネージメントプロセス領域の適用を、全体であれ部分的にであれ、決定することになる。

また組織的プロセス決定プロセス領域と GP3.1「定義プロセスの記述の作成と維持管理」

の例では、この一般プラクティスを一つかそれ以上のプロセス領域へ導入するには、この一般プロセスの導入に必要な組織的プロセス資産の設立を行うために、全体にしる部分的にしる、組織的プロセス定義プロセス領域を、まず最初に導入すべきだろう。

表 6.2 は（１）一般プラクティスを導入する支援を行うプロセス領域、と（２）一般プラクティスと、それらと密接に関係しているプロセス領域との再帰的（recursive）関係、とを記述している。どちらのタイプの関係も、一般プラクティスとそれに関係するプロセス領域との間に存在する自然な共同作業（synergy）の利点をプロセス適用の中で活かす為には重要である。

表 6.2 一般プラクティスとプロセス領域との関係

一般プラクティス	一般プラクティスの適用におけるプロセス領域の役割	一般プラクティスをいかにして関係するプロセス領域へと再帰させるか
GP2.2 プロセスの計画	プロジェクト計画： プロジェクト計画プロセスは、自身を除く、プロセス領域に関係する全てのプロジェクトにおいて、GP2.2 全体を適用可能である。	プロジェクト計画プロセスに適用された GP2.2 は、「計画の計画」という位置づけとなり得て、またプロジェクト計画活動の計画を受け持つ
GP2.3 リソースの提供 GP2.4 責任所掌の任命	プロジェクト計画： プロジェクト計画の SP2.4「プロジェクトのリソースの計画」を適用するプロジェクト計画プロセスの一部分は、プロセス領域に関係する全てのプロジェクト（プロジェクト計画自身の最初の頃を除く）の GP2.3 と GP2.4 の適用を、必要なプロセスや役割、責任所掌を識別し、プロジェクトが必要としている適切なスタッフと施設、装置、その他資産が確保されている事を保証する事で、支援する。	
GP2.5 人の訓練	組織的訓練： 組織的訓練プロセスは、プロセスを実行もしくは支援する事になる訓練者に利用可能な、戦術もしくは全組織的な訓練需要を取り扱った訓練を作成することにより、全てのプロセス領	組織的訓練プロセスで適用された GP2.5 は、訓練を維持管理し、作成し、完遂という組織的訓練活動の実行の為の訓練を取り扱う。

	域に適用されるものとして GP2.5 の適用を支援する。 プロジェクト計画：プロジェクト計画 SP2.5「必要な知識と技能の計画」と組織的訓練プロセスの適用を行うプロジェクト計画プロセスの一部分は、プロセス領域に関係する全てのプロジェクトで GP2.5 全体の適用を支援する。	
GP2.6 作業成果物の管理	概形マネージメント：概形マネージメントプロセスは、GP2.6を組織的プロセス領域の幾つかだけでなく、プロセス領域に関係する全てのプロジェクトにおいても全体を適用する事が可能である	概形マネージメントプロセスに適用された GP2.6 は、概形マネージメント活動によって生成された作業成果物の変更とバージョン管理とを受け持っている。
GP2.7 利害関係者の識別と巻き込み	プロジェクト計画：プロジェクト計画 SP2.6「利害保持者の取込み計画」の適用を行うプロジェクト計画プロセスの一部は、GP2.7の利害保持者識別に関する部分（最初の2つのサブ実施）を全てのプロジェクト関連プロセス領域において、全体を適用可能である。 プロジェクト監視と管理：プロジェクト監視と管理 SP1.5「利害保持者の取込みの監視」の適用を行うプロジェクト監視と管理プロセスの一部は、プロセス領域に関係する全てのプロジェクトにおいて、GP2.7の3つ目のサブ実施の適用の手助けとなり得る。 統合プロジェクトマネージメント：統合プロジェクトマネージメント SP2.1「利害保持者の取込みのマネージメント」の適用を行う統合マネージメントプロセスの一部は、プロセス領域に関係する全てのプロジェクトにおいて、GP2.7の3つ目のサブ実施の適用の手助けとなり得る	プロジェクト計画プロセスに適用された GP2.7 は、プロジェクト計画活動において利害関係者の取込みを受け持つ プロセスの監視と管理に適用された GP2.7 は、プロジェクト監視と管理活動における利害関係者の取込みを受け持つ 統合プロジェクトマネージメントプロセスに適用される GP2.7 は、統合プロジェクトマネージメント活動における利害関係者の取込みを受け持つ

GP2.8 プロセスの監視と管理	プロジェクトの監視と管理：プロジェクト監視と管理プロセスは、プロセス領域に関係する全てのプロジェクトにおいて、GP2.8 全体の適用を行う事が可能である。 計測と分析：プロジェクト関係プロセスだけでなく全てのプロセスに対して、計測と分析プロセス領域は、プロセスの監視効率の計測を設立する際に利用可能な情報の、計測や分析、記録に関する一般的なガイドラインを提供する。	プロジェクト監視と管理プロセスに適用された GP2.8 は、プロジェクトの監視と管理活動の監視と管理を受け持つ
GP2.9 客観的評価への執着	プロセスと製品品質の保証：プロセスと製品品質保証プロセスは、自身のプロセスを除く全てのプロセス領域において GP2.9 全体を適用する事が可能である	プロセスと製品品質の保証に適用された GP2.9 は、品質保証活動と選択された作業成果物の客観的評価を受け持つ
GP2.10 上位レベルマネージメントにおける批評状態	プロジェクトの監視と管理：プロジェクトの管理と監視 SP1.6「進捗批評の実施」と SP1.7「節点批評の実施」を適用するプロセスの監視と管理の一部は、こうした批評への上位レベルマネージメントの巻き込みに依存している、全てのプロジェクト関連プロセス領域への GP2.10 の適用を支援する。	
GP3.1 定義プロセスの設立	統合プロジェクトマネージメント：統合プロジェクトマネージメント SP1.1「プロジェクトの定義プロセスの設立」を適用する統合プロジェクトマネージメントプロセスの一部は、全てのプロジェクト関連プロセス領域において GP3.1 の適用が可能である 組織的プロセス定義：プロジェクト関連プロセスだけでなく、全てのプロセスにおいて、組織的プロセス定義プロセスは	統合プロジェクトマネージメントプロセスに適用された GP3,1 は、統合プロジェクトマネージメント活動の為の定義プロセスの設立を受け持つ

	GP3.1 の適用に必要な組織的プロセス資産の設立を行う	
GP3.2 経験に関係した プロセスの収集	統合プロジェクトマネジメント：統合プロジェクトマネジメント SP1.7「組織的プロセス資産への寄与」の適用を行う統合プロジェクトマネジメントプロセスの一部は、プロセス領域に関する全てのプロジェクトに対し、GP3.2 を、部分もしくは全体を適用する事が可能である。 組織的プロセス焦点：組織的プロセス焦点 SP3.4「経験を組織的プロセス資産へと合同する」を適用する組織的プロセス焦点プロセスの一部は、全てのプロセス領域において GP3.2 の全体を適用する事が可能である。 組織的プロセス定義：全てのプロセスに対して、組織的プロセス定義プロセスは GP3.2 の適用に必要な組織的プロセス資産の設立を行う。	統合プロジェクトマネジメントプロセスに適用された GP3.2 は、統合プロジェクトマネジメント活動の計画と実行によって引き出された経験に関するプロセスの収集を取り扱う。

一般プラクティスがこれらのプロセス領域に持つ依存関係を与え、そしてこうしたプロセス領域が提供する、より全体論的な視点を与える事で、これらのプロセス領域は、関係する一般プラクティスの適用の前もしくは適用と時を同じくして、全体的もしくは部分的に、早い内に適用される事が多い。

一般プラクティスがある明確なプロセス領域に適用した結果、プロセス領域全体を冗長なものにしてしまうという状況もまた存在するものの、しかし実際には冗長なものにはなっていない。GP3.1「定義プロセスの設立」をプロジェクト計画と、プロジェクトの監視と管理プロセス領域へと適用する事は、統合プロジェクトマネジメントの最初の特定期間目標である「プロジェクトの定義プロセスを使用する」と同じ効果を与えるものとして考えるのが、自然ではないだろうか。

幾つかの重複が存在する事も事実ではあるが、これらの 2 つのプロセス領域に一般プラクティスを適用する事は、プロジェクト計画と、プロジェクトの監視と管理活動を取り扱う定義プロセスを提供する。これらの定義プロセスは、支援活動（概形マネジメントなど）や他のプロジェクトマネジメントプロセス（統合プロジェクトマネジメントなど）、もしくは他のプロセスをカバーする必要は無いのである。その一方で、統合プロジェクト

プロセス領域によって提供される、プロジェクトの定義プロセスは、全ての適当なプロセスをカバーするのである。

139 ページ（途中で翻訳中断）